

けふばあちゃんからの手紙

—その3— ひろこちゃんへ

(じゃりんこ文庫 乾 京子)



残暑お見舞い申し上げます。

毎日毎日暑い日が続いていますね。お元気ですか？今日も忙しい毎日をお過ごしではないでしょうか？
大学も医学部に編入。卒業後、緊急医療の現場で活躍中と聞きました。なるほどなあと、小さい頃のひろこちゃんを思い出しながら、けふばあちゃんは妙に納得しています。

ひろこちゃんが初めて文庫にやってきたのは、1996年初秋だったかな？幼稚園の年中さんの時でした。常連さんの春木さんに手を引かれてやってきました。ひろこちゃんは覚えていないかもしれませんね。ひろこちゃんは、ここに引っ越してきてから、そんなに経っていないくて、しかも、お母さんがちょっと難しいご病気で入退院を繰り返していらっしやる頃でした。

おかっぱの小さな女の子、だけど、いろんな敵から自分と妹を守らなきゃという責任感と訳の分からない不安からでしょう、触れると切れそうな小さなナイフで身を守っている…そんな印象のひろこちゃんでした。
その頃のこと、けふばあちゃんは滋賀県子ども文庫連絡会の会報誌に書いていました。

「……………9か月程前から、Aちゃん姉妹が来るようになった。最初は同じ幼稚園に通うお友達のお母さんと一緒に来て、以来、おばあちゃんのお家に行っていた春休みを除いてほとんど毎回来ている。彼女たちのお母さんは、ちょっと難しいご病気で入退院を繰り返していらした。

Aちゃんは、文庫の看板がでるとすぐにやってきた。絵本もすらすらと読み、漢字も読める。頭の良い、しっかりしたおねえちゃん。でも、どこかしら鋭いナイフのようなところがあって、危なっかしくて目が離せない、トラブルも多い。出足の遅い他の子に比べて一番に来ては、私との二人だけの時間を楽しむようになった。絵本を読む

私に体重を預けてもたれかかってくるのを感じて、時には膝に抱えて絵本を読んだりした。

そのうち次々と、他の子どもたちが来たり、他のお母さんたちと私が話し出したりすると、イライラと話の中に割って入ってきたりする。保育園から妹が帰ってくると、たちまち、ちいママに変身して、指しゃぶりする妹を膝に抱えてまるでお乳をあげるお母さんのようにかいがいしく世話を焼く。

ちいさな体で必死になって自分と妹のちいさな世界を守ろうとしている。時にはちいさな嘘(ファンタジー)と、他の子にとってはきつい言葉で。ひと月、ふた月、み月……。クリスマス、お正月……。クリスマスのためにすてきなサンタクロースを作ってくれたAちゃん。でも、みんなの前でご挨拶はできなかった。やっぱり、恥ずかしかったから。お正月を過ぎるころ、トランプ、双六、福笑い、かるた、肉弾、…遊びを通して友達の輪が広がっていた。いつしか彼女の存在が気にならなくなってきた。お天気がいいと公園に行ってさんざん遊んだ後、暗くなる頃にまたやって来て、『おばちゃん、エルマーもう一回借りるよ。折り紙の本、もつとないの？ 今度図書館から借りてね。』と、あれこれ選んだり、注文をつけたり、そして、『ああ、重い！』と絵本袋を抱えて帰っていく。

おはなしおばちゃんのお話の時も以前の必死さがなくなって、お話を心から楽しんでいる。

『この頃、ずいぶん落ち着きましたねえ』と、おはなしおばちゃん。

『おかあさんもこの頃お元気そうだし、よかったですねえ』

子どもたちに対しても一人の人格者として、決して甘やかさず、見下さず対等に接するおはなしおばちゃん。お化けの話の好きな4年生。かいじゅうの好きな1年生。ノリノリの元気な女の子たち。さっさと本を選んで帰る6年生。よくしゃべるおばちゃん。にこにこおばちゃん。ネコの好きな子。嫌いな子。お話しよりモノづくりの好きな男の子。いろんな子がいて、いろんな大人がいて、いろんな人と人の間に、いろんなちいさな風が吹いて、そして、こどもたちは、おとなたちは、育っていく。」(1997. 6. 12文庫連だより)

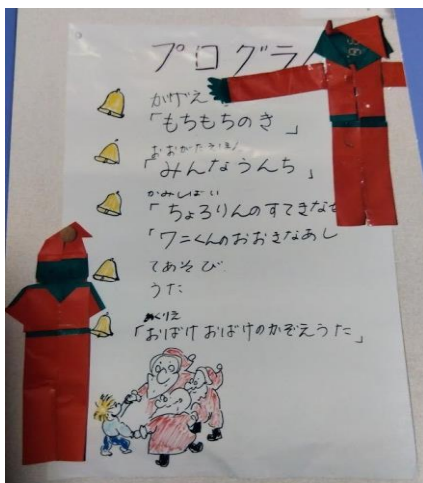
あの頃のままのひろこちゃんが目に浮かびます。こんなこともありました。バス通りから下りてくる階段で、けふばあちゃんは、階段を踏み外して肉離れを起こしたことがありました。ちょうどお家の前で遊んでいたひろこちゃんが走ってきて、「おばちゃん、だいじょうぶ？ 歩ける？ 私につかまって！」と、本当にそろそろ私の手を取って家まで送り届けてくれたこともありました。そして、またすぐ引返してきて、「おばちゃん、これっ」差し出してくれたのは、スマイルとたんぽぽ。うれしかったなあ。足の痛さを忘れてしまうくらいうれしかった。



かがくあそびや男の子たちとビー玉パチンコゲームやビー玉万華鏡、なにかしら考えてモノづくりに集中する。そんな一面もありましたね。そんなひろこちゃんだったので、お医者様になった、それも緊急医療。なるほど、そうもありなんと思えたのでした。あれから30年近く経ちました。もう立派な大人のひろこちゃんなのに、けふばあちゃんにとっては、いつまでも幼い頃のあなたです。



← 「かがくあそび」で、牛乳パックカメラを作っているところ。



←クリスマスに作ってくれたサンタさん、
これを持ってオープニングの
ご挨拶をお願いしていましたが、……
プログラムにちょうどよかったね。



みんな真剣に聞いているね。
何のお話だったかなあ？リビングがいっぱいで
次の次の年から、自治会館をお借りするようになった
ね。



出し物終わって、元気になられたお母さんも一緒
お茶会。これもたのしかったね。

みんなどうしているかなあ？
昔がなつかしいって、けふばあちゃんもおばあさん
になったってことかな？そういえば、あの頃は、「いぬい
さんのおばちゃん」とか「えほんのおばちゃん」だったね。

長くなりました。お元気でね。またね。